

第5章 地域別の取組方針

うるま市は地域ごとに地域資源や誘客施設を有しており、特性に応じた取組を進めていくことが重要です。以下では「石川地域」、「具志川地域」、「勝連・与那城地域」の3地域の特性と取組方針を整理しました。

1. 石川地域

～闘牛から自然体験、夜のお酒や食事まで楽しめるゲートウェイ～

■概要

- 石川地域はうるま市の北部に位置し、沖縄本島においては中南部と北部をつなぐ位置にあります。
- 市内では唯一、沖縄自動車道のICが立地する地域でもあり、那覇市や那覇空港とは高速バスの定期路線が運行しています。
- 市街地の商店街では飲食施設等が集積しており、恩納村等に宿泊している観光客が訪れています。
- 西側のエリアの多くが山林や丘陵地、農地などで構成されており、ビオスの丘やゴルフ場といった自然を活用したレクリエーション施設や闘牛がみられる石川多目的ドームがあるほか、伊波城跡や鍾乳洞等の史跡、歴史的景観が現存しています。



■主な地域資源

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> 闘牛 伊波貝塚 伊波按司の墓など 	<ul style="list-style-type: none"> 石川岳 石川ビーチ 石川川 など 	<ul style="list-style-type: none"> 伊波メンサー 	<ul style="list-style-type: none"> 石川多目的ドーム CAVE OKINAWA ビオスの丘 など

■主な取組方針

- 闘牛イベントの会場である石川多目的ドームを有する本地域では、闘牛振興に係る行動計画表の見直しを図りながら「闘牛のまち・うるま」を推進します。
- 西側エリアに広がる農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進や、食の魅力向上を図ります。
- 誘客拡大と消費拡大、路上駐車解消を目指し、石川ICを有し中南部と北部をつなぐゲートウェイとしての側面を持つ本地域では「石川地域まちづくり推進計画」に基づき交流拠点等の機能強化を図ります。
- 市街地の飲食施設と連携を図りながら、ナイトコンテンツの充実による滞在型観光を推進します。
- 石川多目的ドームを活用した各種イベントを推進します。
- 石川岳や石川ビーチなどの自然資源を活用し新たなツーリズムの開発促進を行います。
- 隣接する恩納村と連携し修学旅行や団体客の体験の受入等を推進します。
- ビオスの丘での自然体験やCAVE OKINAWAでの鍾乳洞体験など石川に立地する観光事業者と連携し、着地型観光を推進します。

2. 具志川地域

～食とスポーツコンベンションを軸とした交流エリア～

■概要

- 内陸部に位置する県道 75 号線（沖縄石川線）や県道 8 号線、県道 85 号線（沖縄環状道路）沿道を中心に市街地が形成されており、商業が集積するほか、ベッドタウンの機能を有しています。
- 沖縄市との市境や金武湾沿岸を中心に豊かな自然が残り、集落が点在するほか、中城湾新港はクルーズ寄港地となります。
- うるマルシェでは県内客を中心として市内の農産物や特産品を求めて訪れています。また、同施設では新たな特産品なども多く販売されています。
- 具志川野球場にて令和5（2023）年より阪神タイガース2軍のキャンプ地として受入れを開始しています。サッカーについても、令和4（2022）年度に具志川多種目球技場にクラブハウスを整備するなど誘致強化を図っています。



■主な地域資源

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> • 安慶名城跡など 	<ul style="list-style-type: none"> • 野鳥の森自然公園 • 宇堅ビーチなど 	—	<ul style="list-style-type: none"> • うるマルシェ • 中城湾港（クルーズ） • 具志川野球場 • 具志川多種目球技場クラブハウスなど

■主な取組方針

- うるマルシェでは、農産物を活用した新たな商品開発と提供を推進し、食の魅力向上を図ります。また、農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進や、食の魅力向上を図ります。
- 野鳥の森自然公園や宇堅ビーチなどの自然を生かした自然体験やマリンレジャーの開発を推進します。
- ビジネス目的の滞在者が多い中城湾新港地区ではワーケーションやナイトコンテンツを推進します。
- 中城湾港ではクルーズ船受入れに向けた体制の整理を図ります。また、海外のクルーズ客の来訪を見据え多言語対応や周遊ルートの検討を推進します。
- 2月のキャンプシーズンでは具志川野球場を拠点として阪神タイガースファンの周遊促進を図ります。
- 具志川多種目競技場クラブハウスを拠点としてプロサッカーチーム等の誘致の強化を図ります。
- 近接する沖縄市にてプロスポーツイベントが開催される際には連携を図ります。

3. 勝連・与那城地域

～勝連城跡や海中道路、島しょ地域などの保全と活用の両輪による誘客エリア～

■概要

- ・勝連・与那城地域は、うるま市内を南東に伸びる勝連半島と8つの島から成り立っています。
- ・金武湾と中城湾の両湾に面した美しい海岸・島々や斜面地や丘陵地が多く起伏に富んだ風景がみられます。
- ・沖縄有数の観光地であり、世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡や、沖縄最古の伝統を守る平敷屋エイサー、海中道路等を見に人々が訪れます。
- ・勝連地域では、勝連城 10 代目城主「阿麻和利」の半生を描いた地元の小中高生による「現代版組踊 肝高の阿麻和利」が 20 年以上受け継がれてきています。
- ・本地域は、もずく生産量が全国一位であり、沖縄県内のもずく生産の約4割を占めています。



■主な地域資源

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> ・勝連城跡 ・仲原遺跡 ・肝高の阿麻和利など 	<ul style="list-style-type: none"> ・海中道路 ・島々の景色など 	<ul style="list-style-type: none"> ・もずく ・小麦 ・塩、ピーグ ・津堅にんじんなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまわりパーク ・東照間商業等施設 ・あやはし館 ・ロードパークなど

■主な取組方針

- ・世界遺産勝連城跡及びその周辺地域の歴史的価値・文化的価値の保全と活用による魅力向上を図ります。
- ・浜比嘉島などの島しょ地域については観光客の受入れにあたって地域住民の生活の妨げとならないよう適切な観光地マネジメントを推進します。
- ・本地域に広がる農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進を図ります。
- ・来訪割合が最も高い海中道路については、あやはし館とロードパークの機能強化と魅力創出に取り組みます。
- ・旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線については「勝連・与那城地域まちづくり推進計画」に基づき利活用促進を図ります。
- ・浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）を活用したワーケーションの推進を図ります。
- ・肝高の阿麻和利を活かした観光体験プログラムの推進を図るとともに、きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築を行います。
- ・マリンスポーツプログラムや島しょ地域を活用した体験プログラムの開発支援を行います。
- ・「つむぐうるまプロジェクト」などの取組により、もずくや小麦、塩、ピーグなどの特産品のブランド化を図ります。
- ・世界遺産勝連城跡等の地域資源を活かした MICE の推進を図ります。